

# 戦国大名の政策・都市の形成

戦国大名は、しばしば伝統的な守護職への補任を望み、また、将軍・天皇との結びつきを強めようとした。しかし、基本的に戦国大名の権力は独自のなもので、上位者との従属的な関係は存在しなかった。その意味で戦国大名の分国は地域国家とも言え、大名は分国法を定めたり、城下町の建設で分国の活性化に努めたりした。

## ○戦国大名の政策

### ●戦国大名の分国支配

戦国大名は、分国（領国）支配のために<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ を制定した。

<分国法の特徴>

①御成敗式目の影響

②新しい権力の性格を示す条文の登場

◇②として<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が有名

◇(2) …理由を問わず、争いをした者を、<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_  
 双方とも処罰すること  
 …武士の自力救済原理を否定



### ●戦国大名の諸政策

①城やそれを中心とした<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ の建設

⇒例えば、朝倉氏は城が建つ<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ への居住を家臣に命令

②大河川の治水・灌漑

⇒例えば、武田氏の<sup>しんげんつつみ</sup>信玄堤が有名

③鉱山の開発

⇒例えば、毛利氏が他氏と争奪した<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ が有名

④その他（交通制度の整備、関所の廃止、楽市の設置）



図1 信玄堤

# ○中世都市の形成

## ●新しい都市

政治都市（京都・奈良・鎌倉）を除けば、14～16世紀の都市は、次の3つのタイプに大別できる。

### <タイプ①：門前町・寺内町>

寺社の門前に<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ や、  
浄土真宗（一向宗）の寺院の周囲に<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ が発達した

⇒(11) としては、伊勢神宮の宇治・山田、  
信濃国<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ の長野、延暦寺の坂本が有名である。

⇒(12) としては、越前国の吉崎、摂津国の<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_、  
河内国の<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ が有名である。



図2 主要な門前町・寺内町

### <タイプ②：港町・宿場町>

遠隔地商業の発展で港町・宿場町が成立した。

⇒港町としては、伊勢国の<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ と、  
薩摩国の坊津<sup>ぼうつ</sup>が挙げられる。

◇<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ …備後国にあった港町で、洪水のためか廃絶



日明貿易で栄えた<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ や<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ などの港町は、  
豪商の組織に運営され、自治都市の性格をもった。

⇒(18) では<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ばれる36人の豪商が、  
(19) では<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ばれる12人の豪商が運営した。

◇「堺は）ベニス市の如く執政官に依りて治めらる」と、  
宣教師ガスパル＝ヴィレラが『耶蘇会士日本通信』で報告



図3 主要な港町・宿場町

### <タイプ③：城下町>

大名の城に付属する形で<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ が成立した。

(<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ 氏の豊後府内 / <sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ 氏の山口  
朝倉氏の<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ / 後北条氏の<sup>(26)</sup> \_\_\_\_\_ )



図4 主要な城下町

## ●伝統的な都市—応仁の乱後

古い政治都市の京都でも、人々は町という組織単位でまとまり、  
町に属する裕福な商工業者<sup>(27)</sup> \_\_\_\_\_ を中心に自治をおこない始めた。

⇒町ごとに町法という独自の掟を定めた。



応仁の乱後、京都の行事「祇園祭」は、(27) によって復興・主導された。

◇祇園祭…御霊会が変化した行事で、もとは公家が主導したが、乱によって中断

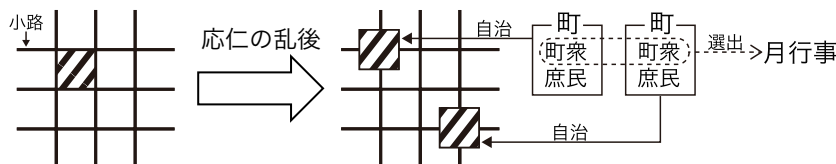


図5 京都の人々のまとまり（斜線部：まとまり）

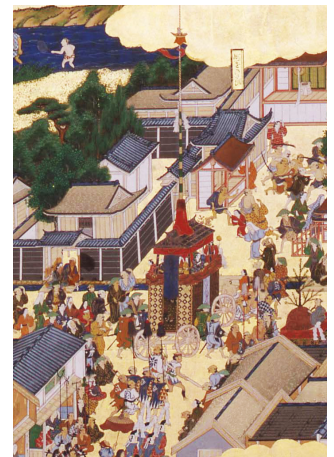


図6 祇園祭